

バク転インストラクター検定 実技試験について

実技試験となる、動画審査は2次試験の内容となりますので、1次試験(WEB試験)に合格者された方のみが動画審査に進んでいただく流れとなります。1次試験に合格されていない方や未実施の方は、お受けできませんのでご注意ください。

動画審査の合格基準(実施項目)



当試験は、今後内容を変更する場合があります。

実技試験では、試験内容にご協力いただける『技術モデル』をご手配いただきます。大人でも子ども(小学生以上)でも構いませんが、怪我や事故のないよう、十分安全に考慮しながら実施してください。(当協会では技術モデルの手配や実施時の事故等の責任は負いかねます)

【バク転の実践】	【感覚練習の指導】	【補助の実践】
<p>受検者</p> <p>運動構造を理解した、バク転が実施できる(補助付きでも良い)</p> <p>① 《バク転の実践》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■腕は大きく振れているか、腕の振りと膝曲げのタイミングはあっている ■後方へ重心移動ができ、足裏全体で踏みしめることができる ■身体が伸びた弓のりの姿勢がとれて、着手時の指の方向は、ハの字もしくは正面を向いている ■手のひらでしっかりと支持ができ、あふりを利用して地面を突き放して足裏で着地ができている 	<p>受検者 対象者</p> <p>対象者…技術モデルの手配</p> <p>感覚練習を対象者に理解させた補助ができる</p> <p>※対象者が感覚練習を理解した動作になっているかもポイント</p> <p>② 《背中支持》 ※踏切時の重心移動 実施方法と実施ポイントを理解し、正しい動作となるように誘導することができる。 ※マット上で必ず実施してください(エアトラ使用はNG)</p> <p>③ 《立ちブリッジ》 ※着手地点への軌道確認 補助方法とサポートポイントを理解し、正しい動作となるように誘導することができる。 ※マット上で必ず実施してください(エアトラ使用はNG)</p>	<p>受検者 対象者</p> <p>対象者…技術モデルの手配</p> <p>バク転動作に合わせて正しい補助を行うことができる ※踏切～着地姿勢まで</p> <p>④ 《インサート補助》</p> <p>⑤ 《クロスインサート補助》</p> <p>⑥ 《ショルダー補助》</p> <p>⑦ 《キャリー補助》 ※なるべく、対象者は強いジャンプはせずに補助者に身を任せる</p> <p>⑧ 《サポート補助》</p> <p>⑨ 《バディー補助》 ※マット上で必ず実施してください 対象者の動作を妨げることなく、対象者の動きに合わせて、動作のサポートをすることができる。</p>
<p>テキストにて、補助ポイントや動作の誘導方法を確認してください! 合格基準に達しない実施は再送信をお願いすることがあります</p> <p>対象者の動作も審査に含まれますので、動画撮影の前に動作の練習をしてください。対象者の服などを掴んだり、引っ張ったりせずに手や腕の力で補助を行ってください。</p>		

撮影した動画の送信期間と送信方法

LINEでカンタン送信!

[送信期日] 受検料のお支払い日より**90日以内**に送信してください。 ※優待校や団体受検の方は、送信期日が右記と異なる場合があります。
※上記期間内に送信されなかった場合は、失効となります。

[送信方法] ①「日本バク転協会 LINE公式アカウント」を友だち登録をしていただけます。
②LINEのトーク画面を開いて、下記の申請項目を入力し、9つの動画を送信して完了です。

申請項目

受検者氏名・電話番号 ※入力漏れにご注意ください



LINE 友だち登録方法

※無料のサイトです

STEP① 日本バク転協会 LINE公式アカウントを友だちに追加します。



STEP② QRコードをタップするとQRコードリーダーが起動します。



ID検索から友だち追加する場合は検索をタップし、LINE IDで検索

@tib1239w

STEP③ QRコードリーダーで下のQRコードを読み取ってください。



STEP④ 追加をタップすると友だち追加完了です。



動画送信についてのご質問は、HPのお問い合わせフォームよりご連絡ください。

携帯アドレスより送信される場合は、事前にPC受信確認やドメイン解除をされてから送信してください@japan-bakuten.or.jp

実技動画の撮影方法について

実技動画は、2次試験内容となりますので1次試験のWEB(筆記)試験実施後の審査となります。

下記の手順に沿って、動画の撮影を行ってください。

Step1 撮影に使用する機器と設備を確保

- ★実施項目は、安全のためマット上で実施してください
- ★画質が荒かったり、暗いと審査がしづらくなりますので画質の確認もしてください
- ★補助者もしくは指導者の管理のもとで安全に実施してください

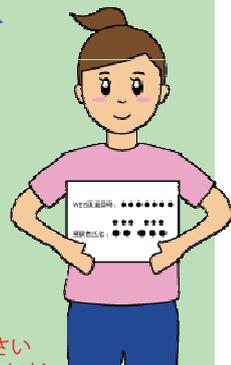
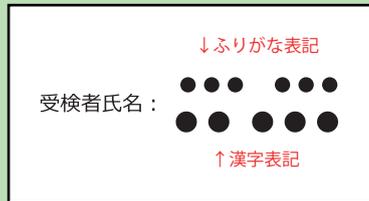


受検者及び技術モデルのスキルの状況で、どうしてもマット上でできない場合・・・
 空気で膨らませたエアーマットやエアートランポリンの上で、実施しても構いません。
 ※背中支持・立ちブリッジ・パディー補助はマット上で必ず実施
 ※ハネを使用したトランポリンはNG

どなたかに撮影を依頼するか、三脚などで固定をして撮影を行ってください。

Step2 本人確認用紙の記入

A4用紙(白紙)に受検者氏名記入してください。
 ※指定の用紙はありませんのでご自身でご用意ください。



画像から確認できるように大きく記入してください
 (確認出来ない場合、再送信いただく場合があります)

Step3 本人確認ポーズと『バク転実施動画』の撮影

本人確認ポーズからバク転実施までをひとつの動画に収めてください

※身体がフレームアウトしない程度の距離で撮影してください

実施開始の合図として、構えの姿勢で2秒以上静止してください。(他の実施項目も同様)

終了の合図として、着地後の姿勢で2秒以上静止してください。(他の実施項目も同様)



バク転インストラクター検定では、補助付きでのバク転実施を認めております。ただし、撮影時は審査の妨げにならないように補助者は受検者の奥側に構えてサポートをしてもらってください。

実施の妨げにならない場所に本人確認用紙を置いて、バク転を開始してください。

側面から撮影する形で、一連の動作がわかるようにしてください。バク転の進行方向の指定はありませんので、右方向でも左方向でも大丈夫です。画面から身体が見切れてしまうなどフレームアウトしてしまったり、姿勢や動作が分からないくらい小さく映ることがないように注意してください。

実施の向きは、右向きでも左向きでも構いません。

本人確認ポーズは、本人確認用紙と顔が大きく映るようにしてください。

1つの実施に対して、複数の動画をカットして組み合わせたりせずに、1つの動画になるようにしてください。 ※加工や編集は不可

携帯での撮影は、横向きを推奨いたします

Step4 他の動画の撮影

- 実施項目
- 背中支持
 - 立ちブリッジ
 - インサート補助
 - クロスインサート補助
 - ショルダー補助
 - キャリアー補助
 - サポート補助
 - パディー補助

※Step3の『バク転実施動画』と合わせて9つの種類の動画を送信していただきます。



対象者…技術モデルの手配

動画の目安時間
1動画/8～13秒

1つの実施項目につき1動画にしてください

対象者の服などを掴んだり、引っ張ったりせずに補助を行ってください。

Step5 申請項目と動画を LINE トークに投稿(送信)

受検料のお支払い日より90日以内に送信してください。

※優待校や団体受検の方は、送信期日が上記と異なる場合があります

送信する動画の数 9個

- 送信する動画の順番
- ①バク転実施動画(本人確認ポーズ)
 - ②背中支持
 - ③立ちブリッジ
 - ④インサート補助
 - ⑤クロスインサート補助
 - ⑥ショルダー補助
 - ⑦キャリアー補助
 - ⑧サポート補助
 - ⑨パディー補助



申請項目の入力忘れや間違いにご注意ください。動画の投稿忘れや順番間違いがあると審査が正常に行えませんので、必ず送信前に再確認をお願い致します。

審査及び結果発表

合否の結果は、1ヶ月以内にご登録いただいたメールアドレスまたは動画送信アドレスへ送信させていただきます。

※審査・選考内容やクリア数などに関するお問い合わせにはお答えできません。予めご了承ください。

※審査の過程で詳細確認等が必要な場合には、ご連絡をさせて頂く場合があります。

※規約や注意事項に反していることが判明した場合は、合否発表後であっても結果を取り消す場合があります。

※優待校や団体での受検の方は、各団体や所属施設へ一括伝達、もしくは動画送信LINEのトークにてお伝えさせていただきます。

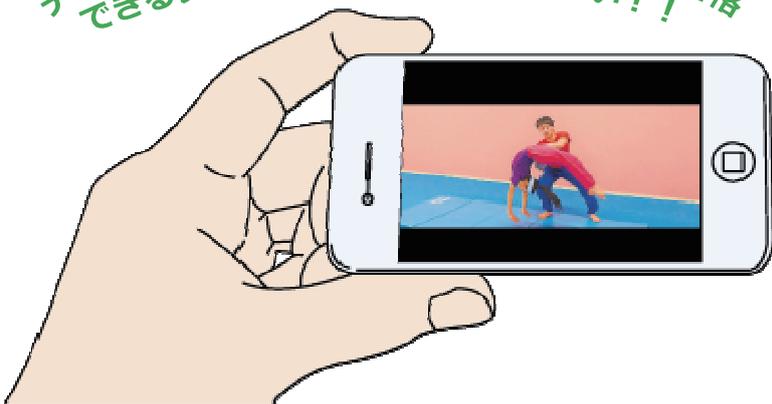
バク転インストラクター検定 動画審査ポイント

テキストにて、補助ポイントや動作の誘導方法をよく確認した上で実施及び撮影を行ってください。

※ポイント1 対象者の動作も審査に含まれますので、動画撮影の前に動作の練習をしてください。

※ポイント2 対象者の服などを掴んだり、引っ張ったりせず手や腕の力で補助を行ってください。

テキストと実技参考動画で事前に学習すれば合格できるレベルですのでご安心ください!!



合格基準に達しない実施については再送信をしていただく場合があります!

《動画再送信となった実施例》



①対象者の実施が正しくできていなかった

- 支持(サポート)の方法自体に間違いがあった
- 支持(サポート)の力加減が弱く、誘導できなかった
- 補助者が誘導するポイントの理解が不足し、誘導ができていなかった

②自信のない、あいまいな動作になっていた

- 補助者が不安を抱えていると対象者が安心して身を任せられてない
- 補助の誘導が対象者の実施スピードに合わせられていない
- 対象者が不安そうに実施していた(動作の指導が十分ではないと判断)

③補助方法自体が間違っていた(学習不足)

- 補助の構えた手や足が間違っている
- 補助方法や補助ポイントが理解できていなかった
- 補助が途中で中断されていた(着地後の上体を起こすところまで補助に入れていない)

実施項目の実施ポイントをまとめた『実技参考動画』は受検申請後に閲覧いただけます。

